

『祈りにもとづく使徒的共同体とは』

孤立からつながりへ

1 前回の振り返り

第3回には約90名のみなさまにご出席頂きました。始まりの歌「ともにあつまる」に続き、第2回「迷い出た一匹の羊を群れに連れ戻し、「わが家」になるための具体策」で出されたキーワードを振り返りました。また、「日曜サロン」開始の経緯や、その他、孤立を防ぐための活動を行う信徒交流関連グループ（「受け皿」「はじめの一步」「ふれあい広場」「教会案内ツアー」「メリエンダ」「水曜ティーサロン」）、「ウエルカムテーブル」等の紹介を行いました。

2 グループによる対話、発表

配付資料に掲載したキーワードから、各自で関心のある事項を選んで用紙に記入頂き、事務局にて9つのグループ分けを行い、テーマ毎に集まって、孤立を防ぐ工夫について話し合ってもらいました。

① 受洗前後

代父母が新受洗者への接し方を学び、分かち合う場として「代父母会」の結成を

提案。新受洗者の集まりの企画も同会にて行いたい。

② 居場所

入りやすい「窓口」の設置や共通の話題を取り上げた「きっかけ」作り、「オープンスペース」の充実を図りたい。

③ 声掛け・挨拶

挨拶等は「受け入れられている」ことを伝えられる。一方、人によっては距離感の配慮が必要な場合もある。

④ 趣味

教会は趣味の場ではないが、つながりが持てる。書道はみ言葉を、旅行は巡礼を、等教会らしさを出す工夫もしたい。

⑤ カウンセリング

従来のカウンセリングに縛られず、信仰を中心として自由に寄り添い、ひとりでは出来ないことも、仲間が集う中で「何かができる」との活動を目指す。

⑥ 待つ

強制せず、神さまに委ね「祈りながら待つ」グループを作りたい。「待つ」は①～⑥のすべてのグループにリンクする言葉である。

⑦ 祈り

生活の中心に祈りをおきたい、祈り方を学びたい、共に祈る場を求めたいとの思いから「私たちの祈りの会」を立ち上げたい。

⑧ 分かち合い

相互交流の場の一つとして、3～4人単位による分かち合いの少人数のグループを作りたい。テーマは聖書をベースにその都度決めていきたい。

⑨ インターナショナル

自国の人々とつながることを求めて来られる外国の方とつながるには、きめ細かい対応が必要。各人のニーズをマッチングできるグループを作れたらと思う。

3 英主任司祭の総評

現代の都会における問題は孤立である。高齢者、定年後の人たち、独身者、子どもたちなど、孤立状態にある人は多い。配付したミッション2030の前文でも現代社会の孤独について、反福音的なものとして触れている。つながりを求めることは救いへのアプローチとして大事である。つながりづくりそのものが福音を広げていくとの意識があるとよい。

イエズス会入会時には、「どこに派遣されても何でもひとりでやっていけるイエズス会員になれ」と言われたが、現代では「どこでも共同体がつくれる、協働できる人間であれ」と変わった。個人主義はよくない。共同体づくりがミッションとなったのである。

現代では、共同体といっても家庭と職場くらい。その家庭も核家族で、祖父母が孫の顔を見る機会は少なく、職場でもかつてほどのつながりはない。地域のつながりもなくなった。震災後の壁の薄い仮設住宅も、むしろ地域のつながりがあったと懐かしがられている。

このような大都会のドライナ人間関係の中でも、教会では全く異なるつながりができる喜びがある。つながりを作るのが、現代における救いに与っていると

言えるのではないだろうか。大都会のドライナ人間関係の中でも無理しないつながりがあればいいと思う。この教会は人材が豊富なので、主任司祭として妨げはしない。場所の制約はあるが創意工夫をしてみたい。例えば信者が受け持つ講座は既に開催されている。

つながりを作るためのちよつとした工夫はできるのではないか。例えば、挨拶の話が出たが、外国で行われているようなフリーハグ、それが大げさならフリー握手にしてみるなど。いろいろな形でみなさんのアイデアを活かしたつながりづくりを目指せばよいと思う。

※次回も今回の9テーマで話し合いを深めて行きたいと思います。

※次回のお知らせ

10月27日(日)午後1～3時、ヨセフホール。

『祈りにもとづく使徒的共同体とは』

孤立からつながりへ パート2

詳細は、チラシ、ポスター、教会報マシスを参照下さい。

ミッション2030 共同体を生きるグループ